

# (3) 地いきの資源を生かしているまち

## ① 自然と共に生きる 只見町



① 癒しの森のブナ林

### つかむ

写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。

### 只見ユネスコエコパーク

あかりさんたちは、只見町の写真や資料を見て、気づいたことについて話し合うことにしました。



「癒しの森には、たくさんのブナの木が生えているよ。森の中を歩くと気持ちよさそうだね。」



「森ではたくさんの種類の動物や植物を見ることができるそうだよ。」



「何月の写真だろう。ブナの葉がしげる季節なのに、雪も見られるね。」



「只見町では、雪がたくさんふるみたい。福島市とはずいぶんちがうね。」



「たくさんの雪どけ水が、ゆたかな自然を育てているそうだよ。」



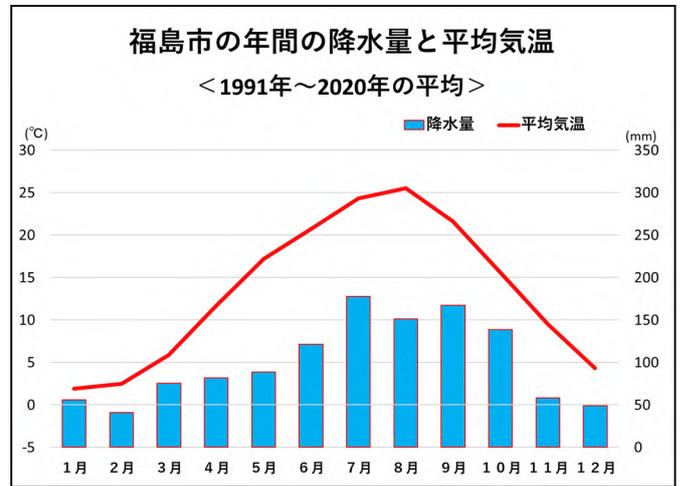
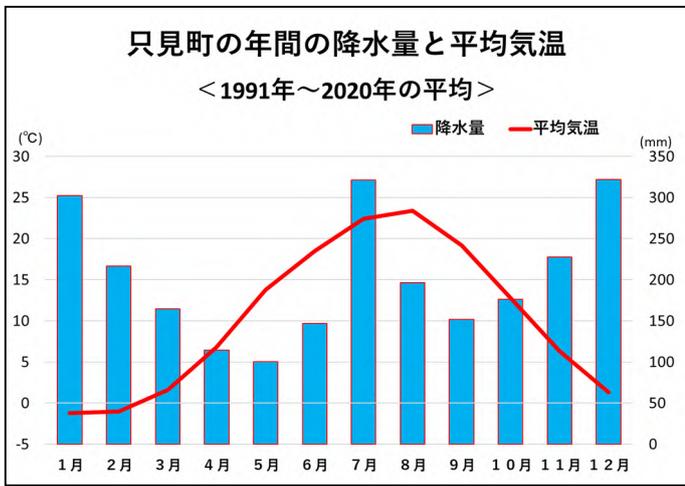
② カモシカ

### ユネスコエコパーク

ゆたかな自然や生態系を守りながら、それらを生かして発展するモデルとして、ユネスコにみとめられた地いきのこと。

ユネスコとは、教育や文化などを通して平和を目指す世界的な機関です。

日本では、2023(令和5)年現在、10か所の地いきがみとめられています。



③ 只見町と福島市の※1降水量と※2平均気温 (「気象庁 H P」より作成)

※1 降水量：地面にふる雨や雪の量のこと。  
 ※2 平均：いくつかの数や量をならしたあたいのこと。



「只見町は、ユネスコエコパークに  
 登録されていると聞いたことがある  
 よ。」



「只見町には、どうしてこんなにゆた  
 かな自然が残っているのかな。」



「きっと、町の人たちが自然を守る取  
 り組みをしているからだと思うよ。」



「ゆたかな自然をまちづくりに生かし  
 ているからではないかな。」



「只見町のまちづくりについても調べ  
 てみたいね。」

あかりさんたちは、話し合ったことをもと  
 に、学習問題をつくりました。

学習問題

只見町では、ゆたかな自然をどのようにして守り、ど  
 のようにまちづくりに生かしているのでしょうか。



④ 人の身長をこえる雪

【調べること】

- ゆたかな自然を守る取  
り組み。
- ゆたかな自然を生かし  
たまちづくりの取り組み。

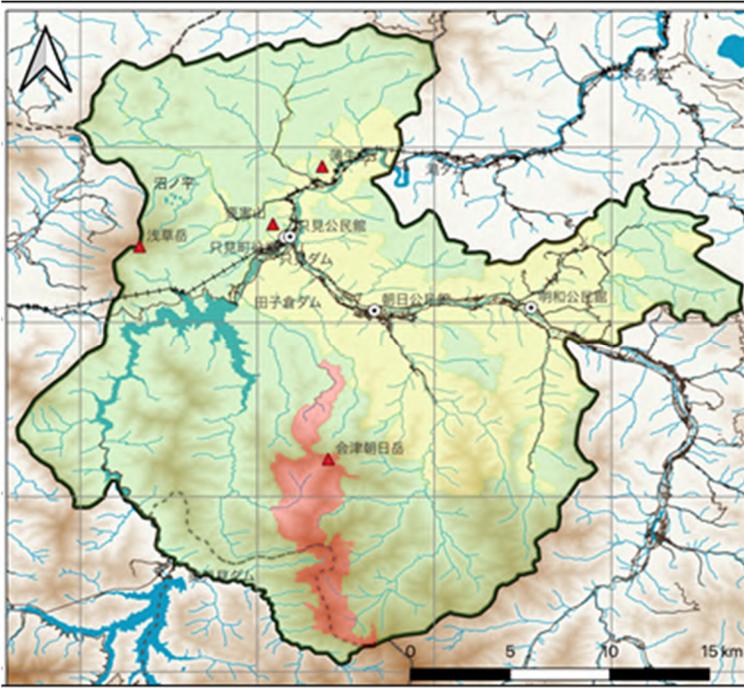
【調べ方】

- パンフレットやインタ  
ーネットを使って調べる。
- 町役場で働く人や博物  
館学芸員の方にインタビ  
ューをしたり、メールや手  
紙でたずねたりする。

【まとめ方】

- 只見町の取り組みや  
人々の生活について、4コ  
マCMにまとめる。





**かくしん 核心地いき**   
 自然の保護・保全が最優先となる地いき。

**かんしょう 緩衝地いき**   
 保護・保全をしながら、調査・研究、伝統的なしゅりょう・採取、観光などができる地いき。

**いこう 移行地いき**   
 かんきょうに負荷の少ない産業を行うことができる地いき。

**① 土地の管理区分**

(「只見ユネスコエコパーク定期報告書」より作成)

## 調べる

只見町では、どのようにして、ゆたかな自然を守っているのでしょうか。



② 保護監視員の活動

## ゆたかな自然を守る

あかりさんたちは、只見町の自然を守る取り組みについて調べ、わかったことを話し合いました。

「きちょうな自然を保護・保全する地いきと、活用できる地いきに分けているそうだよ。」

「それでも、野生の動植物を勝手にとってしまう人が多く、みんながこまっていたから、

町で保護や監視をする人をお願いしたそうだよ。」

「只見町では、世界ブナ・サミットが開催され、国内外の研究者が、貴重なブナ林を守るために、ブナの価値や保護・保全の仕方について話し合ったそうよ。」

### かんきょうの保護と保全

保護とは、人の立ち入りをせいげんしたり、禁止したりして、そのままの状態を保つことです。

保全とは、そのままの状態を保ったり、改善したりするために、対さくを行うことです。



③ 世界ブナ・サミット



④ 只見町ブナセンター



「ゆたかな自然を守るために、多くの人  
がかか  
が関わっているのね。」



「2007（平成19）年には、只見町ブナセ  
ンターができたそうだよ。」



「何のためにできたのかな。ブナセンタ  
ーの人に聞いてみよう。」

### なかの ブナセンターの中野さんの話



ブナセンターは、只見町のブナ  
林などを保護しつつ、それらを生  
かした地いきづくりを行うことで、町を元気  
にしようという思いでつくられたんだよ。町  
の自然や伝統的な生活文化の特ちょうと、よ  
さを広く知ってもらおう活動をしているよ。

自然を調べ、知り、守り、そして、それらを  
持続可能な形で活用していくことは、私たちが  
生きるためにも重要なんだ。

年	できごと
1955 (昭和30)	只見村と明和村が合併し、 只見村になる。
1959 (昭和34)	只見村と朝日村が合併し、 只見町になる。
1973 (昭和48)	越後三山只見国定公園が指 定される。
1992 (平成4)	布沢恵みの森構想で、ブナ 林保護運動が始まる。
2003 (平成15)	布沢恵みの森が「郷土の 森」に指定される。
2005 (平成17)	世界ブナ・サミット2005in 只見が開催される。
2007 (平成19)	「只見町ブナセンター」が できる。 「子どもブナサミット」を 開催し、「自然首都・只見」 を宣言する。
2008 (平成20)	世界ブナ・サミット2008in 只見が開催される。
2009 (平成21)	「ただみ・ブナと川のミュ ージアム」がオープンする。
2014 (平成26)	只見ユネスコエコパークが 登録される。 只見町立朝日小学校がユネ スコスクールに登録される。
2015 (平成27)	「只見ユネスコエコパーク 推進のための行動計画」を 定める。
2017 (平成29)	只見町立すべての小・中学 校がユネスコスクールに登 録される。

### ⑤ 自然保護に関する年表

（「只見ユネスコエコパーク」ホームページ  
より作成）



① なんごう 南郷トマト



② ただみまち さんさいりょうり 只見町の山菜料理

## 調べる

ひとびと  
只見町の人々は、ゆたかな自然をどのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。



③ つる細工



④ 只見町のおみやげ

### みんげいひん 民芸品



「民衆的工芸品」の略で、人々の生活の中から生まれた手工芸品のこと。地いきの身近にある材料を使い、そこにくらす人々の知恵と経験から作られています。

## ゆたかな自然しぜんを生かしたまちづくり

ただみまち ひとびと  
あかりさんたちは、只見町の人々がゆたかな自然をどのようにまちづくりに生かしているか調べ、わかったことを話し合いました。



しゅうへん  
「只見町やその周辺の地いきで作られる南郷トマトは、関東地方や関西地方でも売られているそうだよ。」



さんさい きょうどりょうり  
「山菜や川魚を使った郷土料理は、町内の飲食店や宿はくし設で食べることができるんだって。」



そざい  
「つる細工など、地いきの自然素材を使った民芸品には、町がみとめたおみやげとして売られている物もあるよ。」



ぎよぎょう  
「自然を生かして、農業や漁業がさかんに行われていることがわかるね。それを観光にも生かしているんだね。」



⑤ 只見ふるさとの雪まつり



⑥ 只見町公認自然ガイドツアー



「冬には、たくさんふる雪を生かして雪

まつりを開催しているみたいだよ。」



「只見町公認自然ガイドによるツアーや

自然の中での体験活動など、エコツーリズムもさかんに行われているそうだよ。」



「只見町の人たちは、どのような思いで自然を生かしたまちづくりに協力しているのかな。」

### エコツーリズム

地いきぐるみで、自然かんきょうやれきし文化など、地いきのよさを観光客に伝える取り組みのこと。そのよさが理解され、自然の保全につながっていくことを目指しています。

### 只見町公認自然ガイドの渡部さんの話

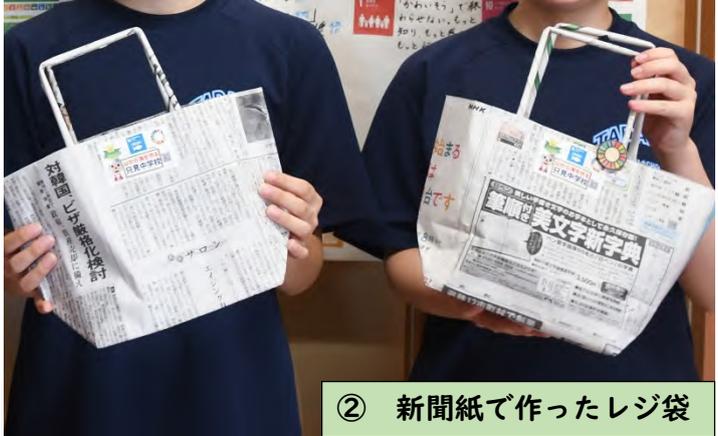
観光者や地元の小学生に、季節の草花や雄大な自然のこと、自然をうまく利用してきた人々の生活などについて伝えていきます。



只見町の自然や風景はみんなの宝物です。たくさんの人にそれを知ってもらい、感じてもらうことで、只見町にまた来たいと思う人がふえてほしいと願っています。美しい風景を何十年後も残しながら、町も発展してほしいですね。



① <sup>しぜん</sup>自然を守ることをよびかける小学生



② 新聞紙で作ったレジ袋

## <sup>しぜん</sup> <sup>とも</sup>自然と共に生きる

<sup>ただみまち</sup>只見町の小・中学生は、自然を守りながら町が<sup>はってん</sup>発展していくための<sup>ほうほう</sup>方法について考え、行動する<sup>イーエスディー</sup>ESDに取り組んでいます。ゆたかな自然を大切に<sup>あい</sup>する気持ちや地いきを愛する気持ちは、町の<sup>ひとびと</sup>人々にも広がっています。



「自然を守るための行動を考えて、いっしょに取り組もうと、小学生が地いきの人たちの前でよびかけていたよ。」



「只見町の自然を守ることが、世界中の自然を守ることに<sup>つな</sup>つながるとも話していたよね。」



「町の商店では、中学生の作った新聞紙<sup>ぶくろ</sup>レジ袋が、プラスチックレジ袋の代わりに使われているんだって。」



「小・中学生の新しい取り組みが、ほかにもありそうだね。調べてみよう。」

## 調べる

これからもゆたかな自然を生かしていくために、どのような活動が行われているのでしょうか。

### ESD

Education for Sustainable

Development

の略で、「<sup>りやく</sup>持続可能な<sup>しぞくかのう</sup>開発のための<sup>やく</sup>教育」と訳されます。

世界の人々や、地球上の生き物、そしてこれからの<sup>みらい</sup>未来のことも考え、みんなが幸せに<sup>くら</sup>くらしていける地球に<sup>い</sup>していくために、一人一人ができることを考え、行動するための<sup>まな</sup>学びのことです。



只見町  
教育ポータル

## まとめる

ゆたかな自然を生かす  
只見町について、調べた  
ことをもとに4コマCM  
をつくりましょう。

### 学習問題

只見町では、ゆたかな自然をどのようにして守り、  
どのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。

学習問題をもう一度かくにんしよう！



あかりさんたちは、これまでの学習をふり返り、ゆたかな自然  
を守り、まちづくりに生かす只見町の様子について、グループで  
話し合いました。

次に、只見町の自然を生かしたまちづくりを伝える4コマCM  
をつくり、しょうかいし合うことにしました。



③ あかりさんたちがつくった4コマCM